

珈琲動向 Vol 19

相場見通し

NY 先物相場7月限は、4/19 に高値 204.90¢/lb を付けましたが、伸び悩み投機筋の利益確定売りに加え、ブラジルアラビカの収穫期を控え、まとまった売りが出され、5月初めにかけては 180¢ 前半まで値位置を下げました。

しかし、そのレベルは実需筋の買いに支えられ、その後は 180~195¢ レンジで行ったり来たりの方角感がみえない値動きで推移、月末にかけて投機筋の利食い売りが出て 170¢ 台へ下落しました。

今後の相場見通しは、ブラジル収穫が近づき、ブラジル生産者の売りが緩まず弱材料となる一方、ブラジル産地の降霜懸念による相場上昇を期待し、投機筋が当面買い対応し、居座るとみられ、大きな下げは期待できず、短期的には 165~195¢ でのボックス圏での値動きを予想。

中長期的にはブラジルで降霜がなく無事収穫が始まれば、世界的には景況感の悪化による消費減退も意識されており、秋口にかけて一段下げの展開を予想されます。

しかしながら、仮にブラジルの降霜懸念が 8月までの間に顕在化すれば、節目となる 200¢、4月の高値 205¢ を目指し、投機筋が買い対応し、上値を再びトライする展開も視野に入れておく必要があると思います。

LDN 先物相場7月限は、5月頭に 2,406 ドルで寄り付くと、5/10 には 2,386 ドルまで下げる場面もありましたが、実需筋の買いに支えられ、アラビカ相場高でロブスタへの需要が高まる中、投機筋の買いが優勢となり、5/18 に 2,600 ドルを示現すると、5/23 には 2,813 ドルまで急伸しました。

そのレベルで買いは一服し、月末にかけては投機筋の利益確定売りに 2500 ドル台まで一気に値位置を下げる展開となりました。

今後の見通は、ブラジルコニロンの収穫が 4月から始まり、供給量の増加が見込まれるものの、ベトナム中心とするロブスタの供給量は端境期となる 12月までは供給不足感が増し、ロブスタの収穫が始まったインドネシアも減産見通しが示されており、需給ひっ迫感が緩むことは当面考えにくいです。

こうしたことから、LDN 先物市場は今後も堅調な値動きが続くことが見込まれます。

産地情報

ブラジル:

天候関連では、4月から5月末にかけて目立った降雨が確認されておらず、収穫に望ましい天候が続いています。

気温に関しては、5月中旬にかけて最低気温 4-5°C 周辺と冷え込んだものの、降霜の可能性がある気温 (0°C 周辺) には達さず、その後下旬にかけて冷え込みも緩んでいます。

現時点では天候・気温共に順調であるも、一昨年の降霜は7月中に2度生じており、引き続き気温には特に注視していく必要があります。

同月18日にブラジル農務省傘下のConabより2回目の23/24Crop ブラジル生産量予想が発表されました。

同院は1回目の生産量予想にて5,494万袋(アラビカ 3,743万袋、コニロン 1,750万袋)と発表していましたが、今回2回目の生産量予想では▲20万袋の5,474万袋(アラビカ 3,793万袋、コニロン 1,681万袋)と若干の下方修正を行っています。

内訳としてはアラビカが+50万袋、コニロンが▲71万袋。

Conabの予想は、他ファンドや輸出業者予想(6,200万袋~7,000百万袋)よりも低い傾向にあるが、大きな下方修正を行っていないことから、ブラジルコーヒーの生産状況としては順調であることが伺えます。

(為替関連/その他)

外国為替市場で、ブラジルリアルを含む産油国である中南米を主とした新興国通貨の上昇が目立ちます。

ブラジルリアルに関しては、年初から対ドル上昇率6%を記録しており、5月15日には一時1ドル=4.8リアル台後半と約1年ぶりの高水準を付けました。

5月末には1ドル=5.0リアル近辺まで戻すなど値動きの激しい状況が続いている為、今後の推移に注意していきます。

ブラジルは鶏肉の一大生産地であり、生産量は世界第2位、輸出量では世界第1位を誇ります。

養鶏業界では、現在前代未聞の大規模な鳥インフルエンザ感染が欧州での感染を発端として急拡大しています。

主要生産国の中で感染が確認されていなかったブラジルでも、ついに鳥インフルエンザ感染が発見され、ブラジル政府は180日間の緊急事態を宣言しました。

日本では鶏肉輸入量全体の7割超がブラジル産となっており、更なる感染拡大となれば、卵や鶏肉の供給体制に深刻な影響が出る可能性があります。

コロンビア:

コーヒー関連トピックとして、FNC(コロンビアコーヒー生産者連合会)では5月より新総裁 German Alberto Bahamon Jaramillo 氏を迎えての新たな体制が開始しています。

在任中の主な公約としては、ここ数年低迷している生産量の回復や農協との連携強化、コストの平準化や農家からの買い取り価格の安定などを掲げています。

同氏自体は非常に気さくな方でオフィス内でも積極的に社員とコミュニケーションを図っている、という声も聞かれるが、今後の手腕に期待したい。

産地ではミタカクロップの収穫が30-40%程度進行しているものの、一部農家による売り渋りも見られており、フローの増加には時間を要する可能性があります。

天候は徐々に回復傾向にあり、現状収穫への影響や農家の乾燥行程への影響も特段見られ

ていません。

今後の天候に関する IDEAM (コロンビア気象環境研究所) からの発表によると、6 月以降徐々にエルニーニョ現象の活動が強まると予測されており、北部地域や Huila 県・Tolima 県の一部地域では例年に比べ降水量が 10-20%減少するとの予測も出ています。

6-9 月はメインクロップに向けたチェリーの成熟期として大事な時期になるので、メインクロップの生産量へのインパクトは要注意です。

現時点での供給量に関しては、FNC からの発表によると 4 月の生産量、輸出量はそれぞれ昨対比 25%減、15%減。コーヒー年の通算 (2022 年 10 月~2023 年 4 月) でみても約 10-15%減の 6.2 百万袋、と数字上からも引き続き供給タイト感が窺えます。

直近はマイルドアラビカ全体への需要減退に伴い産地価格は下落傾向にあるが、天候懸念が顕在化してくれば、需給環境の潮目が変わる可能性はあります。

今後はエルニーニョ現象の行方に注意が必要です。

ペルー

22/23 クロップの収穫は低地を始まっているが、現時点で 10%程度にとどまっています。先週は低地では、降雨不足で乾燥していたが、今のところ収穫への影響は出ていません。一方、今後収穫を迎える高地では、適度に降雨が記録されており、チェリーは順調に実りの時期を迎えられそうです。

主要輸出業者、現地農協が買いに入り始めており、今後売買が活発化することが見込まれます。

22/23 クロップの年間生産量は 3.6 百万袋から、5-10%増産予想。

中米：

グアテマラ

22/23 クロップの収穫、農民から輸出業者への売りも、ほぼ 100%終了。

需給状況に関しては、需要サイドはアラビカ相場高が続く中、輸入業者の引き合いが乏しい状況が続いており、ディファレンシャルが多少軟化し始めています。

欧米向けの需要は底堅くあると見られるものの、先物相場及び他産地の値動き次第では産地側もさらなる値付けの判断をする必要に迫られる可能性があります。

23/24 クロップは、例年 5 月~11 月は雨期の中、今月も適度な降雨があり、各地で順調に開花が進んでいます。

今後チェリーが結実する年末まで、天候に留意していきたい。

アジア

ベトナム

先ごろ USDA が発表したベトナムロブスタの 22/23 クロップの最新の年間生産量見通しは 2,874 万袋、前 1/22 クロップの 3,048 万袋から約 6%の減産となっています。

USDA の理由としては、コーヒーと共に、儲 の良いドリアン、アボカド、パッションフルーツなどの他の果実を植える農家が増えており、コーヒーの栽培面積自体が減ってきていることが挙げられています。

直近のベトナムロブスタへの需要に関しては、アラビカ先物も相場高の中、依然として非常に高い状況は変わっていません。

供給サイドから見れば、22/23 クロップの農民から輸出業者への売り、輸出業者の輸入国への売りも、90%前後まで進んだとみられる上、前述の通り、22/23 クロップは前年比で6%減産見通しであり、次クロップの収穫が始まる年末までは端境期となるため、需給逼迫感は当面続くとみられます。

こうした中、ベトナム国内のロブスタコーヒーの取引価格も急上昇しており、輸出業者は既契約の履行のための玉の確保に躍起になっていることから、11 月積までの新規オファーを全面ストップする動きが出始めました。

こうしたことから、今後もディファレンシャルは当面強含み推移すると予想されます。

USDA は、23/24 クロップに関して 3,028 万袋と、3,000 万袋台へ回復を予想。

理由は、農家でコーヒーの木の耐病種への植え替えが進んできたため。

一方、エルニーニョ襲来により、ベトナムは早魃懸念も囁かれるが、今年に入り主要産地では適度な降雨が降り注いでおり、生産に対しては寧ろ支援材料と、USDA は指摘。天候要因については、今後コーヒーの実が結実する年末まで、留意していく必要があると思われます。

アフリカ：

エチオピア

産地では非水洗式コーヒーのフローは潤沢にあり輸出が本格化している。

但し、慢性的なコンテナ不足は解消されず船積遅延が発生していることに加え、引き続き高値で維持されている最低輸出価格に下支えされ、輸出業者は在庫を販売するにもしきれず輸出は停滞している状況。

同国の輸出統計によると、2022 年 7 月 ~2023 年 4 月までの輸出は昨対比約 30%減の約 3.0 百万袋の水準にとどまっている（昨年度（2021 年 7 月 ~2022 年 6 月）の輸出実績は約 5.0 百万袋）。エチオピアの年度末にあたる 6 月に向けて政府からは在庫の積極的な輸出指示が出されることも予想されるが、現在の販売価格での需要回復は考えづらい。昨年に続き 22/23 クロップは良好な生産量が予想されている中で各輸出業者の在庫は積みあがっており、更に来年への在庫のキャリアというシナリオも十分考えられ、品質が懸念される状況も変わらず続いていくとみられます。

外貨不足も深刻化しており、IMF からはエチオピア政府に対して通貨切り下げを勧める声もあります。

エチオピアブル安は輸出に恩恵を与える一方で、より一層のインフレ進行が国民に与える影響を鑑みると政府も中々踏み切れない、という苦しい状況が続いています。

後述

しばらくの間、珈琲動向の発信が滞ってしまい申し訳ございませんでした。

弊社も5月をもって、無事に3期を終え、4期が始まりました。

3期では、「SCAJ 2022」に「株式会社福島珈琲様ブース」にて参加させて頂きました。実際に、皆様とお会いすることで、コミュニケーションを図ることができた貴重な体験でした。

4期では、日頃商品の栽培をお任せしている農園主の方々を訪問し、日頃のお礼と今後の方向性を一緒に熟考し、より良い商品開発に繋がりたいと思います。

日本から離れることで、皆様にはご不便をおかけするかと存じますが、ご理解頂けますよう宜しくお願い致します。